

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：南九州輸出茶コンソーシアム、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

南九州輸出茶コンソーシアム（以下、「南九コンソ」という）は、小浦製茶を代表とする共同事業体であり、構成員はオーガニックティーみやざき（以下、（略称）「OTM」という）と（株）お茶の沢田園（以下、「沢田園」という）である。

OTMは、宮崎県内の12戸92haの有機茶生産者から構成され、輸出向け有機荒茶の生産を行っている。

沢田園は、鹿児島県で茶の仕上げ・加工を行っており、国内及び海外へ販売している。

【課題】

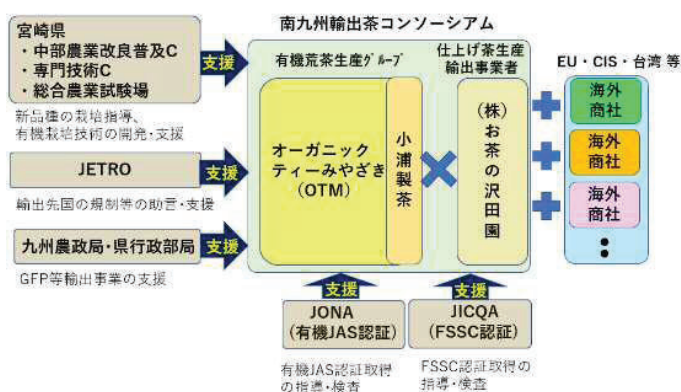
- 産地と茶商の連携強化（流通・販売）
 - 産地（OTM）と茶商（沢田園）の連携強化による、輸出流通マージンの削減
- 輸出先国の事業者との連携強化と新たな市場開拓（流通・販売）
 - 輸出先国の言語に対応したリアルタイムな情報提供システムの構築
 - 新たな市場開拓と低コストな輸送ルート開拓
- 輸出先の需要に合わせた生産体制の整備（生産・加工・流通）
 - 厳しい残留化学物質基準への対応、輸出先ニーズにあわせた品種選定と商品開発、多様な商品企画への対応

2. 輸出事業計画の取組内容

- 産地と茶商の連携強化（流通・販売）
 - OTMと沢田園による南九コンソ（共同事業体）を構築し、OTM×沢田園＋海外商社⇒海外消費者というダイレクトな輸出を拡大していくことで、南九州での輸出向け有機茶産地を確立する
- 輸出先国の事業者との連携強化と新たな市場開拓（流通・販売）
 - OTMと沢田園にクラウド型の生産管理ソフトを導入し、生産管理状況等を海外の消費者も閲覧できる環境を整備
 - 輸出先国の言語に対応したHPを制作し、海外顧客へリアルタイムで産地情報を伝えられる情報発信ツールを整備
 - 新規取引事業者を開拓していくための産地PR動画や資料の制作、有機食品見本市等への出展、海外からのバイヤー招へい
 - 輸出货量拡大に対応できる低コストな輸送ルートの開拓
- 輸出先の需要に合わせた生産体制の整備（生産・加工・流通）
 - ドリフトによる農薬付着のリスク評価、異物除去装置の増設、輸出に対応した資材（大海袋等）の使用
 - 新たな品種や加工技術の導入・研修、味・機能性を訴求できる商品開発、輸出対応商品パッケージ開発、茶の楽しみ方提案
 - 茶工場の集約化、集出荷場の整備、粉末加工施設の整備、輸出対応仕上げ茶ライン（FSSC対応）の増設

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

茶の品種や有機栽培技術に関することは農業改良普及センター、専門技術センター、農業試験場から、輸出先国の規制等の情報などはJETRO、GFP等輸出事業に関する情報は九州農政局・県行政部局、有機JAS認証に関する情報はJONA、FSSC認証に関する情報はJICQAから支援をいただきながら、計画の実証と見直しを行って行く。



4. 輸出目標額

		現状 (令和2年)	目標年 (令和7年)	備考
南九コンソ (宮崎市、小林市、都城市)	輸出額(円)	5,000,000	30,000,000	沢田園仕上茶
	輸出量(t)	2	10	
	輸出先国	ドイツ	EU、CIS、台湾	
	生産量(t)	97	150	OTM 荒茶生産量